

基調講演

日時：2021年8月19日（木） 13:30～15:10

会場：第1会場

Student Successのための学習支援のありかた

（次世代大学を創るための21の提言）

プログラム

司会：仲道 雅輝（愛媛大学）

1. 講師紹介

鈴木 克明（熊本大学 教授システム学研究センター教授

熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻（兼任）

講師略歴

学位：博士（教授システム学）（フロリダ州立大学（アメリカ合衆国））

経歴：ibstpi@フェロー・元理事（2007-2015），日本教育工学会監事・第8代会長（2017-2021），
教育システム情報学会顧問，日本教育メディア学会理事・第7期会長（2012-2015），
日本医療教授システム学会副代表理事，日本イーラーニングコンソシアム名誉会員など。

主著：「学習設計マニュアル（編著）」，「インストラクショナルデザインの道具箱 101（監修）」，
「教育デザイン研究の理論と実践（監訳）」，「学習者中心の教育を実現するためのインストラ
クショナルデザイン理論とモデル（監訳）」，「研修設計マニュアル」，「教材設計マニュアル」，
「教育工学を始めよう（共訳・解説）」，「インストラクショナルデザインの原理（共監訳）」，
「学習意欲をデザインする（監訳）」，「インストラクショナルデザインとテクノロジー（共監訳）」
など。

ウェブサイト：<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/ksuzuki/suzuki-j.html>

現地企画

日時：2021年8月19日（木） 15:30～17:00

会場：第1会場

高大接続教育に関するフォーラム

（愛媛大学・愛媛大学附属高校の取組～早期の“動機付け”から“深い学び”へ）

プログラム

司会：三好 徹明（関西国際大学教育学部講師，元・愛媛大学附属高等学校教諭）

1. 趣旨説明

愛媛大学では、2008（平成20）年4月に、全学附属化したことを契機に、1年生から3年生まで全学年で取り組む高大接続教育プログラムを開発し、教育実践を行っている。2014（平成26）年度からは、文部科学省・大学教育再生加速プログラム（APプログラム）「大学教育の到達点の高度化～早期の“動機付け”から“深い学び”へ」（テーマⅢ：高大接続）の採択をうけ、高大接続改革を促進してきた。2019（令和元）年度末をもって終了したこのAPプログラムについて、どのような取組を行ってきたか、中心的な取組を紹介いただくとともに、今後の高大接続教育のあり方について議論する。

2. 話題提供

愛媛大学附属高校における課題研究実践（WWL事業を通じたこれからの高大接続）

（愛媛大学附属高等学校研究・研修課長、WWL推進委員長 上床 孝樹 教諭）

大学教育再生加速プログラムによる高校生への科目開放

（愛媛大学高大接続推進室 井上 敏憲 教授）

「課題研究」ルーブリックの開発と活用

（愛媛大学教育学部 深田 昭三 教授）

将来構想委員会（ラウンド・テーブル）

日時：2021年8月19日（木曜日） 11:30～13:00

会場：第1会場

学習支援センター交流会

（センターのネットワークづくり）

プログラム

司会・企画：谷川 裕稔（四国大学）

1. 企画の概要

日本の高等教育機関にアメリカ型学習センターが設置されてから23年が経ちました。

しかし、それぞれが独自の学習・学修支援を展開しており、他機関（組織）との交流は多くないというのが実状ではないでしょうか。以前は、日本リメディアル教育学会（以下、JADE）の学習支援部会が中心となって学習支援センターに係るシンポジウムやラウンド・テーブルが頻繁に開かれました。しかし近年では、学習支援センターからラーニング・コモンズに舵を切る高等教育機関が増えてくるにともない、学習支援センターをテーマとした議論が研究発表（口頭／ポスター）でもあまりみられなくなってきました。

本交流会は、「日本の高等教育機関に設置された学習支援センターのネットワークづくりと JADE の役割」をテーマとし、それについて検討・議論することを目的としています。同ネットワークの最終目標は、学習支援センターの各高等教育機関内での地位の向上と活動内容の精査、つまりは専門性の獲得にあります。とはいえ今回の交流会は、各学習支援センターの現状や問題点について、意見を交換し合う場として活用していただくことも視野に入れています。学習支援センターに携わる方々、および関心のある教育関係者の参加を心よりお待ちしております。

2. 話題提供

谷川 裕稔（四国大学）

「趣旨説明・構想・問題提起と課題」

壁谷 一広（大阪体育大学）

「全米学習センター協会の取り組み」